

在校時の思い出

金武 恵士朗 (平成21年度卒業生)

那加中で過ごした3年間で一番印象に残っている出来事は、岡山県白石島への修学旅行です。当時、新型インフルエンザの大流行により、県内の中学校では修学旅行が中止・延期になったり、旅行先が変更になったりと、大きな影響が出ていました。はたして自分たちの修学旅行はどうになってしまうのだろうか、生徒の間では大きな心配事でしたが、無事に修学旅行を迎えることができ、ほっとしたことを覚えています。クラスメイトとトランプをしたり、記念写真を撮ったりした道中の新幹線。そして岡山駅を降りた際には全員がマスクを着用して移動したことなど、今でも鮮明に覚えています。普段とは全く異なる環境に身を置き、そこで暮らす同年代の生徒と交流をしたことで、自分たちの世界を広げられたのではないかと思います。最終日には、船からカラーテープを投げて、島民の方の姿が見えなくなるまで手を振ったことも、良い思い出です。

恩師のたより

平成21年度3年生の思い出 高田 一利 (平成21年度3年学年主任)

この学年は、音楽の教師がいない珍しい学年でしたが、新入生歓迎会での『時の旅人』から合唱祭、卒業式まで、N先生を中心に学年の先生全員で合唱を創ってきました。最高学年としての姿を、歌う姿勢、声量の大きさなど目に映るもので表してきました。

修学旅行では、白石島の中学生との交流、特にシマリンピックが印象に残っています。リレーでは、普段さわったことのない生きたナマコやヒトデ、ダコなどがバトンとして使われたため、ワーワー、キャーキャーと騒ぎながらも一所懸命に走っていました。

体育祭では、プレ大会で最下位だったクラスが、一週間の間に対策を考え、猛特訓をして、当日には上位になっていました。生徒達の「ここぞ!」という時のパワーに感心しました。

いつも「最高学年であることを姿で語る」を意識して、ひたむきに活動してくれた学年でした。



那加中学校70周年によせて 「当時の思い出」

伊藤 奈々星 (平成22年度卒業生)

私たちは、改修される前の体育館で卒業式をした最後の代です。悩み、立ち止まることも多かった多感な時期でしたが、学校に行けば大好きな仲間がいて、笑い合える。親身になってとことん生徒と向き合い、個性を認めてくれる先生方がいる。そんな那加中は、私たち一人一人をたくましく成長させてくれる場でした。

特に力を入れていたのは合唱です。何度も練習を重ね、声と心も重ねてきました。最高学年として、どんな思いをこめてその曲を歌いたいのか意見を出し合い、目標を持って臨んだ最後の合唱祭。その結果、全クラス金賞を頂きました。当時は少し悔しかったのですが、それぞれの良さを光らせることができたからだとは今は素直に思えます。

大人になった今、当時のように大人数で目標に向かい何かひとつのことに取り組める機会はほとんどありません。だからこそ、仲間たちと一つになって歩んだかけがえのない日々は、確実に今の私たちの土台になっています。

恩師のたより

平成22年度の思い出 山下 正悟 (平成22年度3年5組担任)

各務原市立那加中学校創立70周年、おめでとうございます。

私は平成20年度から平成26年度まで、那加中学校でお世話になりました。平成20年度から、1・2・3年生と担任をさせていただきました。自分の学級はもちろん、教科担任などで学年全員と関わることができました。

1番の思い出は、「平成22年度3年生全5学級合唱祭金賞!」です。1組「消えた八月」、2組「信じる」、3組「蒼鷺」、4組「In Terra Pax」、5組「流れゆく川」を歌いました。当時の森崎校長先生を中心とした審査員の先生方からも文句なしの全学級金賞だと言っていただきました。自分の学級はもちろん、自分の学級以外の合唱の相談をされたこともありました。そんな中での全学級金賞。でも、全学級金賞よりもうれしかったことは、全学級が金賞を目指し、本気で努力したその練習過程です。最後の合唱祭に向けた意気込みは、練習風景に表れていました。「努力は報われないかもしれないけど、努力しなければ報われることはない。」そんなことを教えてもらいました。そんな生徒たちも、22歳。もっともっと成長した姿を見たいです。

